

移行ロジック一覧（急性胆管炎・総胆管結石内視鏡治療）

2006年度

現ユニット	移行条件	移行先
A-0	自覚症状・検査値異常がない無症状胆管結石である	A-1
	重症度診断基準（別表）により軽症・中等症胆管炎と診断される	B-1
	重症度診断基準（別表）により重症胆管炎と診断される	C-1
A-1	内視鏡的切石術の術前準備が整う	A-2
A-2	胆管結石を摘除し、合併症併発の可能性が少ない	A-3
	胆管の選択造影に不成功、合併症なし	A-1
	残存結石・急性胆管炎（続発性を含む）のためENBD、ERBD留置 内視鏡摘除不成功・軽症中等症胆管炎継続	C-2 B-1
A-3	症状・検査値の増悪がなく、食事摂取可能と判断される	A-4
	残存胆管結石が疑われるが、自覚症状・検査値に異常なし	A-1
	残存結石による急性胆管炎（続発性を含む）を併発	B-1
A-4	食事開始後も自覚症状・検査値に異常なく、退院可能な状態である	A-5
	残存する胆のう結石があり、胆のう結石手術を選択する	B-2
B-1	一期的切石術を選択し、内視鏡的切石術の術前準備が整う	A-2
	内視鏡的ドレナージ（ERBD、ENBD）を選択し、術前準備が整う	C-2
C-1	内視鏡的ドレナージ術が可能を選択し、術前準備が整う	C-2
	経皮経肝的ドレナージ術を選択し、術前準備が整う	D-1
C-2	内視鏡的ドレナージ術が成功し終了する	C-3
	内視鏡的ドレナージ術が困難で経皮経肝的ドレナージ術を選択	D-1
C-3	胆管ドレナージ後に自覚症状・検査値が安定し、食事摂取可能	C-4
	胆管ドレナージ後、症状・検査値が悪化し、内視鏡的ドレナージを再施行する	C-2
	胆管ドレナージ後、症状・検査値が悪化し、経皮経肝ドレナージを再施行する	D-1
C-4	胆管ドレナージ後に自覚症状・検査値が安定し、内視鏡的切石術の準備が整う	A-2
	内視鏡的切石が困難で胆管結石手術を選択	C-5
	内視鏡的切石が困難で姑息的ドレナージ挿入のまま退院する	B-2
D-1	経皮経肝ドレナージ（PTCD/PTGBD）が成功し終了する	C-3
	経皮経肝ドレナージが不成功（軽・中等症胆管炎）	B-1
	経皮経肝ドレナージが不成功（重症胆管炎）	C-1

* A-1, B-1, C-1の重症度判定は別紙テーブル参照
* E-1から4は並列ユニット、開始・終了条件を参照

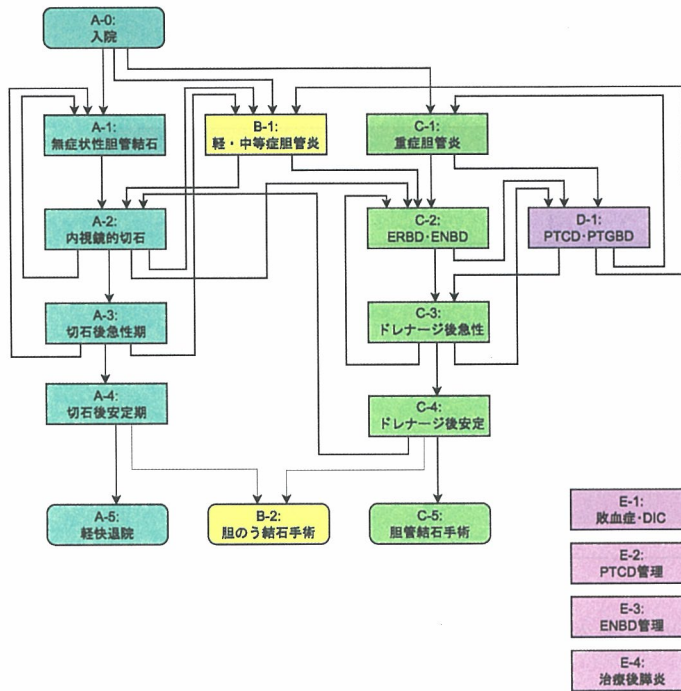
並列ユニットの実施は開始条件・終了条件に従う。開始・終了日を記載

並列ユニット	開始条件	終了条件
E-1	敗血症 and/or DICを併発している	敗血症/DICが軽快
E-2	PTCD・PTGBDチューブを挿入し、ドレーン管理が必要	ドレーン除去可能
E-3	ENBDチューブを挿入し、ドレーン管理が必要	ドレーン除去可能
E-4	胆石性膵炎または治療後急性膵炎を併発し、治療を要する	併発性膵炎が軽快

開始された並列ユニットが終了条件を満たさず、その他の要因のために強制終了した場合の移行条件

並列ユニット	移行条件	移行先
E-1	敗血症 and/or DICが悪化、死亡	離脱
E-2	PTCD・PTGBDチューブを自己抜去、胆管結石残存、腹膜炎なし	A-1 or B-1 or C-1
	PTCD・PTGBDチューブを自己抜去、胆汁性腹膜炎あり	離脱（手術を考慮）
E-3	ENBDチューブを自己抜去	A-1 or B-1 or C-1
E-4	急性膵炎が重症化	離脱（急性膵炎PCへ）

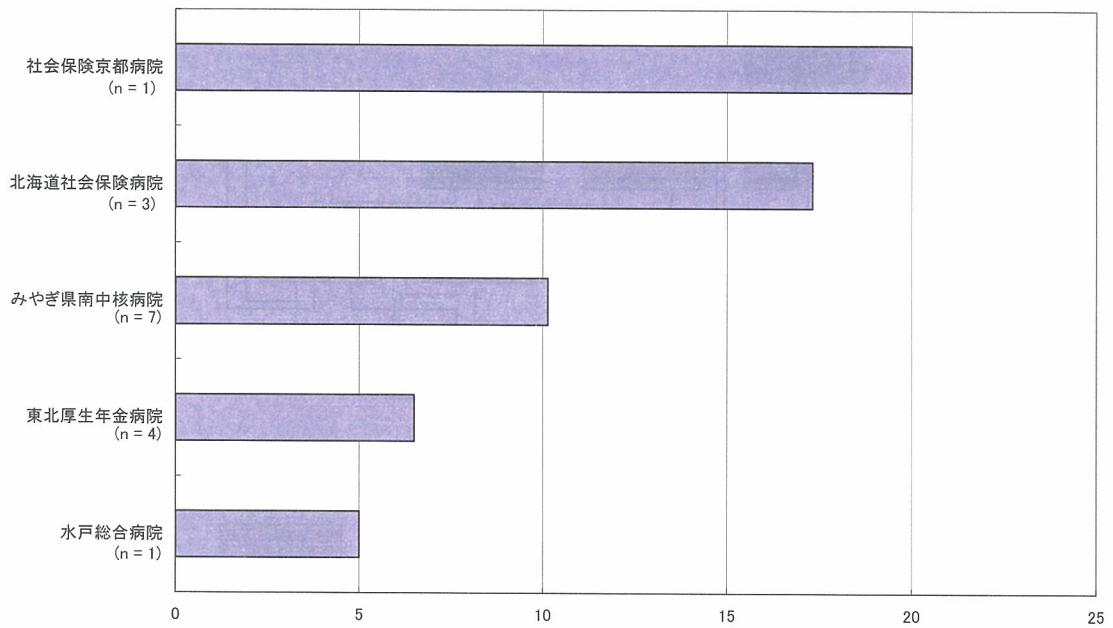
急性胆管炎 診断基準	<p>A. 1. 発熱 2. 腹痛(上腹部・右季肋部) 3. 黄疸 B. ④胆道系酵素上昇 ⑤WBC、CRP上昇 ⑥画像所見(胆道拡張・狭窄・結石)</p> <p>急性胆管炎診断 疑診:Aのいずれか+Bの2項目 確信:①Aのすべて ②Aのいずれか+Bのすべて</p>
急性胆管炎 重症度判定	<p>1. 重症急性胆管炎 下記のいずれかを伴う □ ショック □ 菌血症 □ 意識障害 □ 急性腎不全</p> <p>2. 中等症胆管炎 下記のいずれかを伴う □ 黄疸(T-Bil > 2.0mg/dl) □ 低アルブミン血症 (Alb < 3.0g/dl) □ 腎機能障害 (Cr > 1.5mg/dl) □ 血小板減少 (< 12万/μl) □ 39℃以上の高熱</p> <p>3. 軽症胆管炎 上記のいずれも満たさない胆管炎</p>



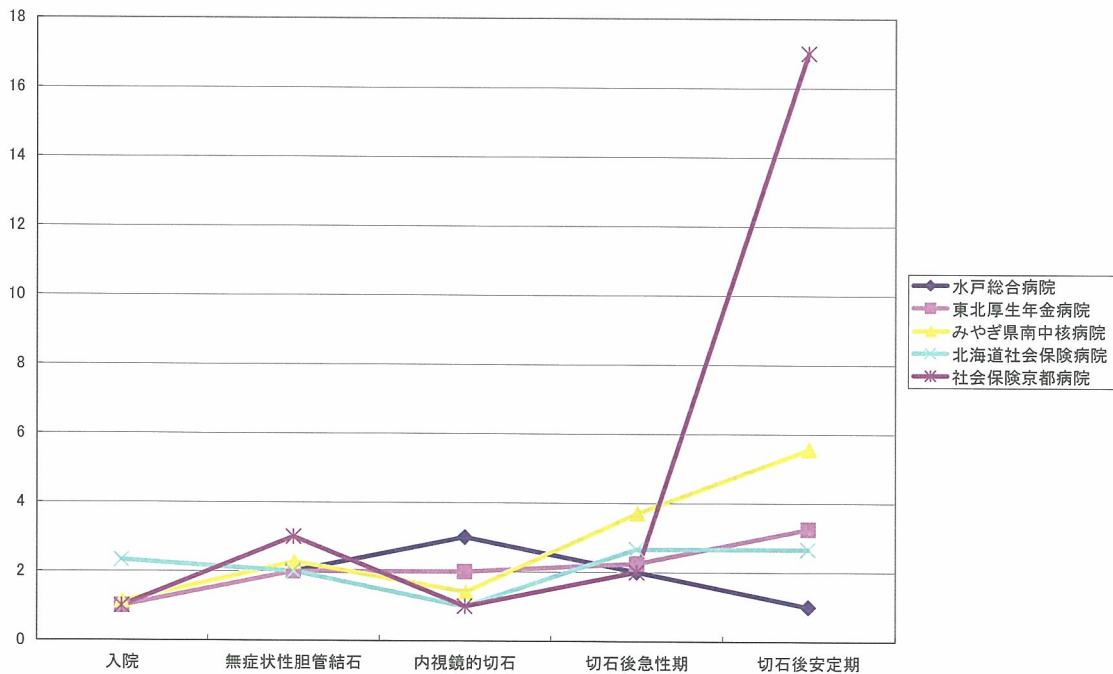
経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
急性胆管炎・総胆管結石内視鏡治療	A0-B1-A2-A3-A4-A5	43	30.1%	○	58.7%
	A0-A1-A2-A3-A4-A5	16	11.2%	○	
	A0-B1-C2-C3-C4-A2-A3-A4-A5	8	4.2%	○	
	A0-B1-A2-A3-A1-A2-A3-A4-A5	2	1.4%	○	
	A0-B1-A2-A3-A4-B2	2	1.4%	○	
	A0-C1-C2-C3-C4-A2-A3-A4-A5	2	1.4%	○	
	A0-A1-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	○	
	A0-B1-A2-A1-A2-A1-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	○	
	A0-B1-A2-B1-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	○	
	A0-B1-A2-B1-A2-B1-A2-B1-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	○	
	A0-B1-A2-C2-C3	1	0.7%	○	
	A0-B1-C2-C3-C4-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	○	
	A0-B1-C2-C3-C4-A2-C2-C3-C4-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	○	
	A0-B1-C2-C3-C4-A2-C2-C3-C4-B2	1	0.7%	○	
	A0-B1-C2-C3-C4-B2	1	0.7%	○	
	A0-B1-C2-C3-C4-C5	1	0.7%	○	
	A0-C1-C2-C3-C4-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	○	
	A0-C1-C2-D1-C3-C4-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	○	
	A0-C1-D1-C3-C4-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	○	
	B1-A2-A3-A4-A5	8	5.6%	×	
	B1-C2-C3-C4-A2-A3-A4-A5	4	2.8%	×	
	A0-B1-A2-A3-A4-A5-B2	3	2.1%	×	
	A0-B1-A2-E3-A3-A4-A5	3	2.1%	×	
	A0-B1-C2-C3-C4-A5	3	2.1%	×	
	A1-A2-A3-A4-A5	3	2.1%	×	
	B1-A2-A3-A4-B2	3	2.1%	×	
	A0-B1-A2-A3-A4-A2-A3-A4-A5	2	1.4%	×	
	A0-B1-A2-C2-A3-A4-A5	2	1.4%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-A2-A3-A4-A5-B2	1	0.7%	×	
	A0-A1-A2-A3-A4-B2-A5	1	0.7%	×	
	A0-A1-A2-A3-C2-C3-C4-C5	1	0.7%	×	
	A0-A1-A2-C2-A4-A5	1	0.7%	×	
	A0-A1-E3-A2-A3-A4-A2-A3-A4-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	×	
	A0-B1-A1-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-A3-A4-A2-A3-A4-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-A3-A4-C5	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-A3-A4-D1-B2	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-C2-A3-A4-B2	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-C2-A4-A5	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-C2-A4-B2	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-C2-C3-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×	
	A0-B1-A2-E3-A3-A4-A5-B2	1	0.7%	×	
A0-B1-A2-B1-A2-C2-C3-C4-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-B1-B1-A2-C2-C3-C4-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-B1-C2-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-B1-C2-C3-C2-C3-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-B1-C2-A4-A2-C2-C3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-B1-D1-C3-C4-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-C1-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-C1-C2-A1-A2-A3-A1-A2-A3-A4-A5	1	0.7%	×		
A0-C1-C2-C3-C4-A5	1	0.7%	×		
A0-C1-C2-C3-D1-C4-A2-A3-A4-A5-B2	1	0.7%	×		
A0-C1-E1-C2-C3-C2-C3-A4	1	0.7%	×		
A1-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	×		
B1-C2-C3-C4-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	×		
C1-C2-C3-C4-A2-A3-A4-B2	1	0.7%	×		
合計	143	100.0%			

平均在院日数



急性胆管炎・総胆管結石内視鏡治療の平均在院日数比較



急性胆管炎・総胆管結石内視鏡治療のユニット滞在日数比較

【検証調査のデータ処理に関する注意事項】

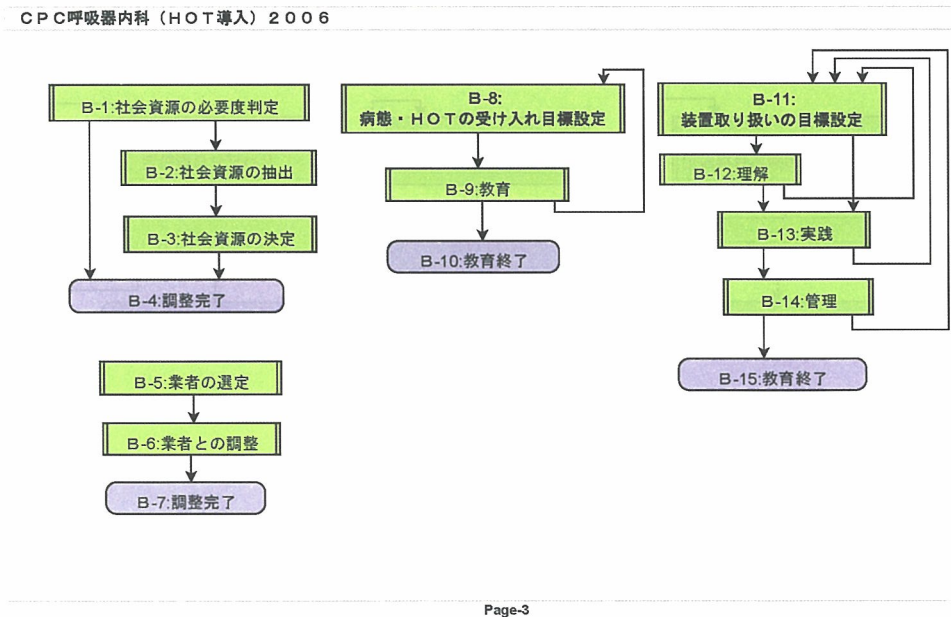
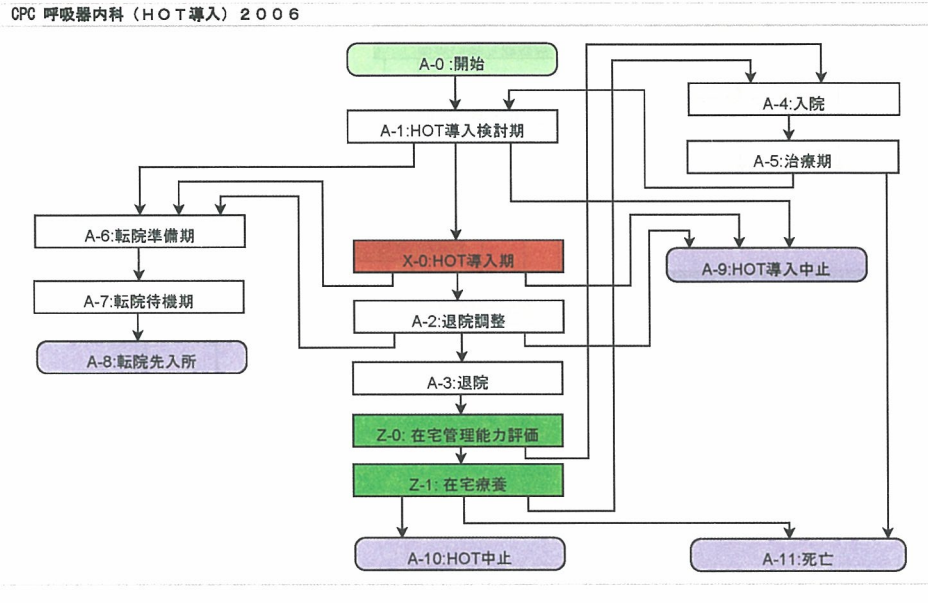
データの外れ値（経過日数の逆転，滞在ユニット記載の不備など）が疑われる症例は除外した。

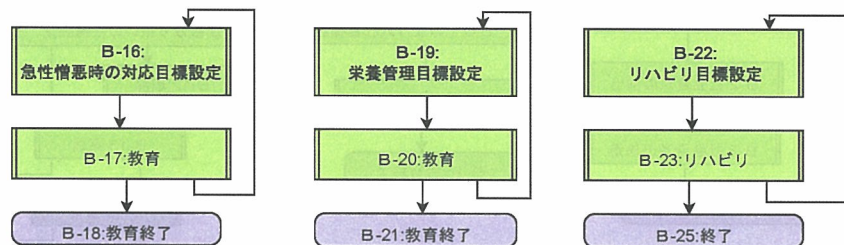
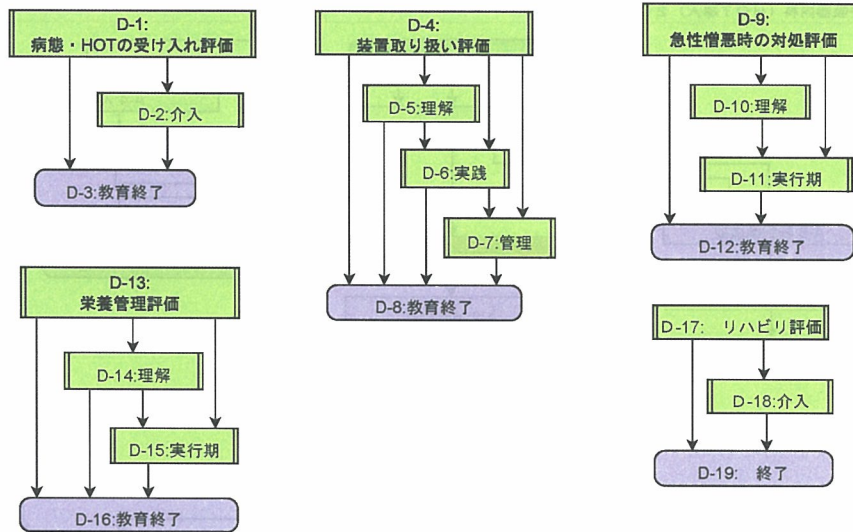
【平均在院日数，ユニット滞在日数に関する注意事項】

グラフには，通常のルート（A系列など）をたどった症例のみを用いた。

従って，サンプル数（n）は検証を実施した全数ではない場合がある。

7) 呼吸器内科 HOT 導入





ユニット移行ロジック一覧(呼吸器内科:HOT導入) 2006年

現ユニット	移行条件		移行先
A-0	HOT導入の検討が出来る	病状が安定し、退院できる身体状態である and 酸素療法から離脱不能である	A-1
A-1	転院が必要な場合	在宅の受け入れが不可能である	A-6
	HOT導入が不可能である	病態の悪化により退院が不可能である or ガイドライン上不適応な身体状態である	A-9
	HOT導入を開始できる	ガイドライン上適応する身体状態である and 酸素吸入量が設定できている and 患者本人・家族の同意がある and 病状の受け入れができています	X-0
	HOT導入が完了した	MSWと販売業者の調整が完了している and 各教育項目の目標を達成している and 試験外泊が問題なく終了している	A-2
	転院が必要な場合	在宅の受け入れが不可能である	A-6
	病態の悪化	病態の悪化により退院が不可能である or ガイドライン上不適応な身体状態である	A-9
X-0	教育プログラムの発動 (A-1からの移行と同時に発動)	MSWとの調整を開始	B-1
		業者との調整開始	B-5
		病態・HOTの受け入れ教育開始	B-8
		装置取り扱い教育開始	B-11
		急性憎悪時の対応教育	B-16
		栄養管理教育開始	B-19
		呼吸リハビリテーション開始	B-22
A-2	退院の手続き・準備が完了する	患者本人・家族の同意のもと退院日時が決定するand 退院に必要な書類作成が完了している	A-3
	転院が必要な場合	在宅の受け入れが不可能である	A-6
	病態の悪化	病態の悪化により退院が不可能である or ガイドライン上不適応な身体状態である	A-9
A-3	退院日を迎えた	身体状態の変化がなく、退院日を迎えた	A-4
Z-0	HOT管理プログラムを開始できる	各教育項目の評価が完了している	Z-1
	入院を要する身体状態である	入院を要する疾患の発症or原疾患の悪化	A-4
	在宅教育プログラムの発動 (A-3からの移行と同時に発動)	病態・HOTの受け入れ評価・教育開始	D-1
		装置取り扱い能力評価・教育開始	D-4
		急性憎悪時の対応能力評価・教育開始	D-9
栄養管理能力評価・教育開始		D-13	
		在宅呼吸リハビリテーション開始	D-17
Z-1	入院を要する身体状態である	入院を要する疾患の発症or原疾患の悪化	A-4
	死亡した	死亡診断が完了する	A-11
	HOTが中止できる身体状態である	ガイドライン上不適応な身体状態である	A-10
A-4	入院手続きが完了する	入院手続きが完了し、治療が開始される	A-5
A-5	身体状態が安定してる	積極的な治療が終了し、病状が安定している and 1ヶ月以内に退院可能である	A-1
	死亡した	死亡診断が完了する	A-11
A-6	転院の手続きが完了する	患者本人・家族の同意のもと転院場所・日時が決定する and 手続き上必要な書類作成が完了する	A-7
A-7	転院日を迎えた	身体状態の変化がなく、転院日を迎えた	A-8

ユニット移行ロジック一覧(呼吸器内科:HOT導入) 2006年

現ユニット	移行条件		移行先
B-1	MSWへの連絡完了	看護師により必要な社会資源が抽出できている 患者本人と家族の同意のもとMSWへ連絡が完了する and	B-2
B-2	必要な社会資源が 確定している	患者本人・家族とMSWの面談にて必要な社会資源が 確 定している	B-3
B-3	社会資源が決定し 申請が完了してい る	活用する社会資源への申請と書類作成が す べて完了している and 患者本人・家族の同意のもとかかりつけ医と 訪問看護ステーションが決定している	B-4
B-5	販売業者への連絡 が済んでいる	販売業者を選定し、連絡が済んでいる	B-6
B-6	設置型酸素濃縮装 置の配置日時が 決定している	販売業者と患者本人・家族との面談と説明が 完 了している and 設置型酸素濃縮装置の設置日時が決定している	B-7
B-8	到達目標が設定 できている	病態・HOTの受け入れについて、 到 達目標を患者本人・家族とともに設定できている	B-9
B-9	目標の再設定が 必要である	現状の目標到達が不可能であり、再設定が必要である	B-8
	受け入れが できている	設定した目標に到達した	B-10
B-11	到達目標が設定で きている	装置の取り扱いについての到達目標を 患者本人・家族とともに設定できている	B-12
	到達目標が再設定 できている	装置の取り扱いについての到達目標を 患者本人・家族とともに再設定できている and装置の取り扱いへの理解に関する教育が完了している	B-13
B-12	目標の再設定が 必要である	目標到達が不可能であり、再設定が必要である	B-11
	装置の取り扱いを 理解している	患者本人・家族が装置の取り扱いへが理解できている	B-13
	目標に到達した	設定した目標に到達した	B-15
B-13	目標の再設定が 必要である	目標到達が不可能であり、再設定が必要である	B-11
	装置を危険なく操 作できている	患者本人・家族が指導内容通りに装置を操作できている	B-14
	目標に達成した	設定していた目標に達成した	B-15
B-14	目標の再設定が 必要である	目標到達が不可能であり、再設定が必要である	B-11
	装置を危険なく 管理できている	設定していた目標に到達した	B-15
B-16	到達目標が設定 できている	急性憎悪時への対応に関する理解について 到達目標を患者本人と家族とともに設定できている	B-17
B-17	目標の再設定が 必要である	目標到達が不可能であり、再設定が必要である	B-16
	急性憎悪の対応を 理解している	設定した目標に到達した	B-18
B-19	到達目標が設定 できている	栄養管理に関する理解への到達目標について 患 者本人・家族とともに設定できている	B-23
B-20	目標の再設定が 必要である	現状の目標到達が不可能であり、再設定が必要である	B-19
	栄養管理を理解し ている	設定した目標に到達した	B-21
B-22	到達目標が設定 できている	呼吸リハビリテーションについての到達目標を 患 者本人・家族の同意をもとに設定できている	B-23
B-23	目標の再設定が 必要である	現状の目標到達が不可能であり、再設定が必要である	B-22
	到達目標に達した	設定した身体活動能力に達成した and呼吸法・呼吸介助法・自己排痰法を習得している	B-24

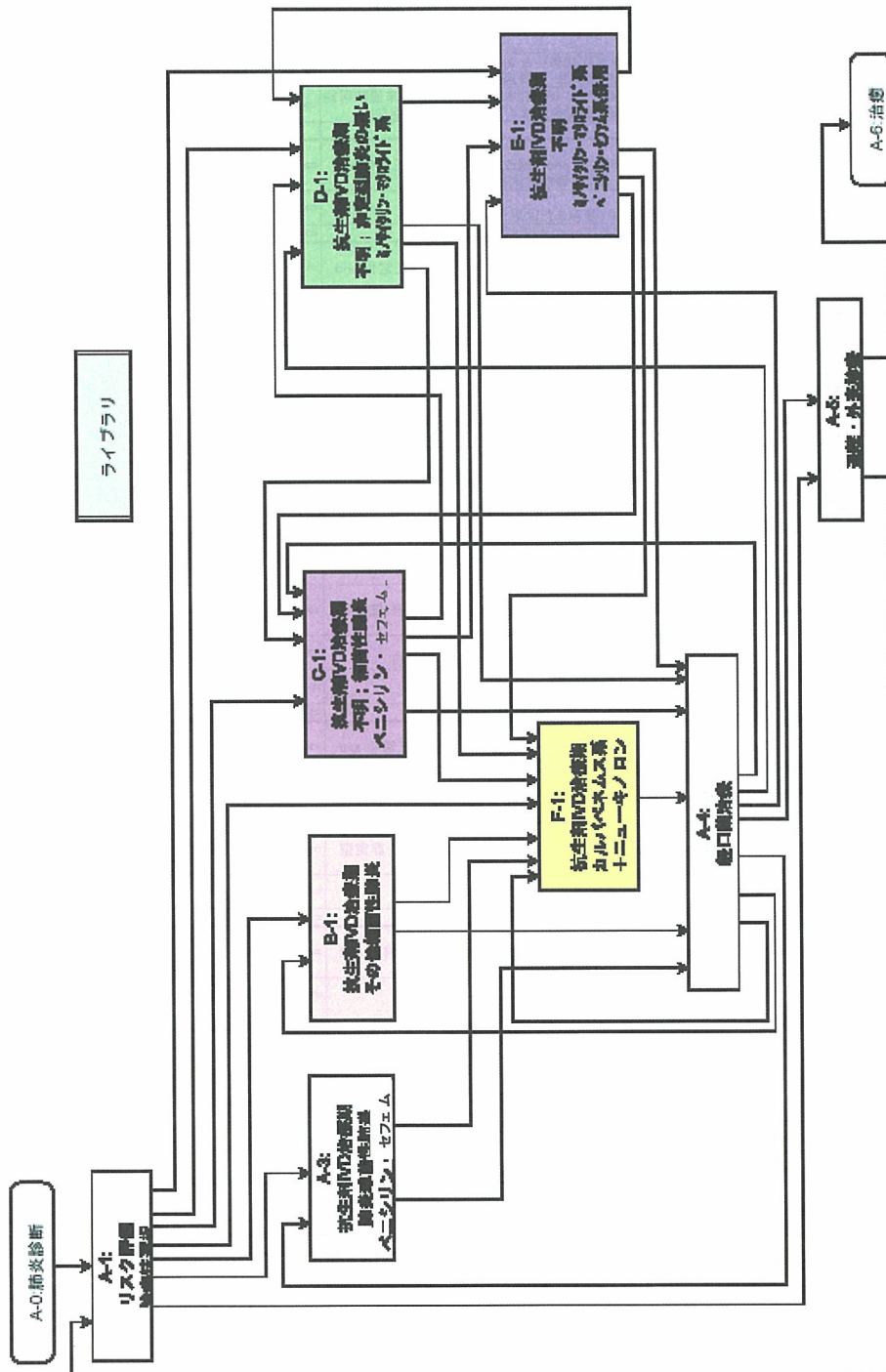
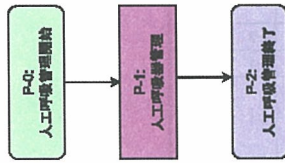
ユニット移行ロジック一覧(呼吸器内科:HOT導入) 2006年

現ユニット	移行条件		移行先
D-1	病態・HOTの受け入れが曖昧である	患者・家族の病態・HOTの受け入れが曖昧である and 病態・HOTの受け入れに関する理解について、到達目標を患者本人・家族とともに設定できている	D-2
	受け入れができています	患者・家族が病態・HOTを受け入れることができています	D-3
D-2	受け入れができています	到達目標に達した	D-3
D-4	装置の理解が曖昧である	患者本人・家族が装置の取り扱いへの理解が曖昧 and 装置取り扱いに関する到達目標について、患者本人・家族とともに設定できている	D-5
	装置の使用方法が曖昧である	患者本人・家族が装置を指導内容に沿って使用できていない and 装置取り扱いに関する到達目標について、患者本人・家族とともに設定できている	D-6
	装置の管理方法が曖昧である	患者本人・家族が装置を指導内容に沿って管理できていない and 装置取り扱いに関する到達目標について、患者本人・家族とともに設定できている	D-7
	装置の取扱いが問題ない	患者本人・家族が装置の取り扱いを理解できている and 指導内容に沿って取り扱いが出来る	D-8
D-5	装置の取り扱いを理解している	患者本人・家族が装置の取り扱いを理解できている	D-6
	目標を達成した	目標が装置を理解することである and 設定した目標に到達した	D-8
D-6	装置を危険なく使用できる	患者本人・家族が指導内容に沿って装置を使用できている	D-7
	目標を達成した	目標が装置を使用できることである and 設定した目標に到達した	D-8
D-7	装置を危険なく管理できる	患者本人・家族が装置を指導内容に沿って管理できている and 緊急時の対応が言える	D-8
D-9	急性憎悪時の対処への理解が曖昧である	患者本人・家族が急性憎悪時の対処方法への理解が曖昧である and 急性憎悪の対応に関する理解の到達目標が患者本人・家族とともに設定できている	D-10
	急性憎悪時の対処が行える	患者本人・家族が急性憎悪時の対処方法を理解している and 急性憎悪時の経験がない	D-11
	急性憎悪時の対処が未経験である	患者本人・家族が急性憎悪時の対処方法を理解している and 急性憎悪時を経験し、指導内容に沿って対処できている	D-12
D-10	急性憎悪時の対処を理解している	患者本人・家族が急性憎悪時の対応方法を理解している	D-11
D-11	急性憎悪時を経験し、危険なく対処できている	急性憎悪時を経験し、実際に指導内容に沿って対処できている	D-12
D-13	栄養管理の理解が曖昧である	患者本人・家族の栄養管理への理解が曖昧である and 栄養管理に関する到達目標について、患者本人・家族とともに設定できている	D-14
	栄養管理の実行が曖昧である	患者本人・家族が栄養管理を指導内容に沿って実行できていない and 栄養管理に関する到達目標について、患者本人・家族の同意をもとに設定できている	D-15
	栄養管理を理解し、実行できている	患者本人・家族が栄養管理を理解している and 指導内容に沿って実行できている	D-16
D-14	栄養管理の理解ができています	患者本人・家族が栄養管理を理解している	D-15
	目標を達成した	目標が理解することである and 設定した目標に到達した	D-16
D-15	栄養管理を実行できている	設定した目標に到達した	D-16
D-17	リハビリが必要である	呼吸リハビリテーションが必要である and 患者本人・家族のリハビリに対する同意がある	D-18
	リハビリが不要	呼吸リハビリテーションが不要な身体状態である	D-19
D-18	リハビリが不要	呼吸リハビリテーションが不要、または不可能な身体状態となった	D-19

(注)

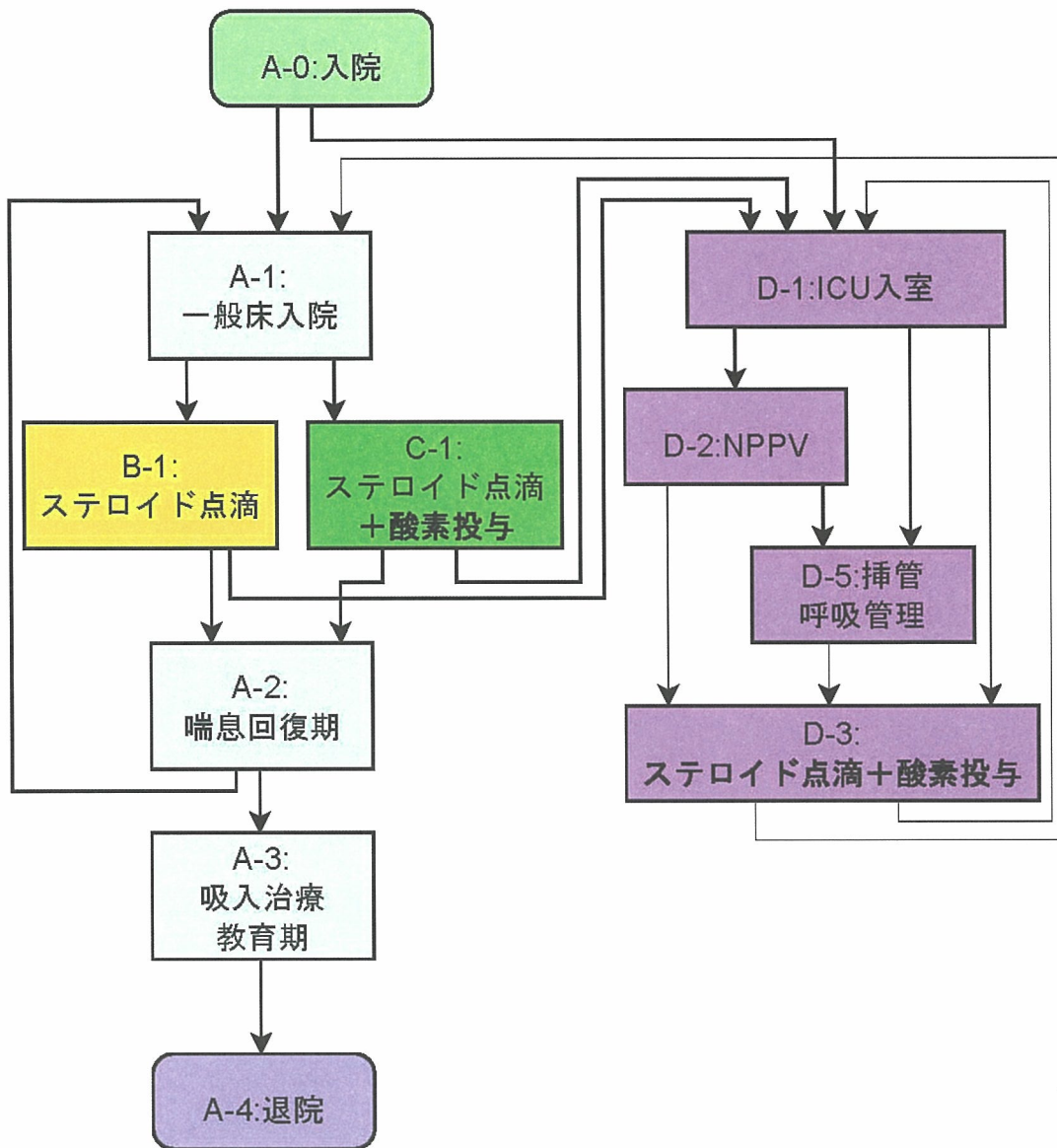
HOT導入パスは、検証調査を実施可能な施設がなく、今年度臨床調査データは得られなかった。

市中肺炎（参考：開発中）



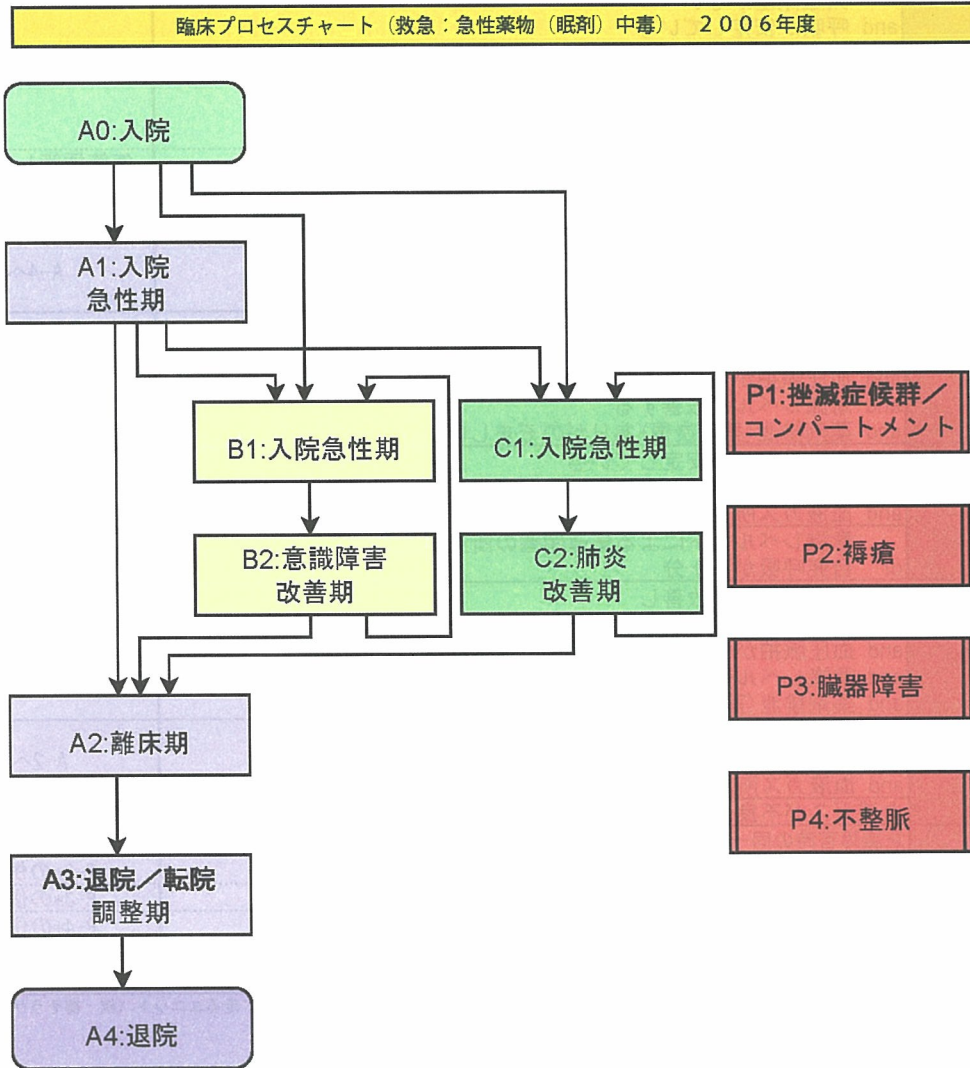
現ユニット	ユニット移行条件		移行先ユニット
A-1	入院の必要あり(重症肺炎p20) (①男性70歳以上、女性75歳以上、②BUN21mg/dlまたは脱水、③SpO2<90%、④意識障害あり、⑤血圧90mmHg以下 :①~⑤4項目以上) 以下の5つから選択(A-3,B-1,C-1,D-1,E-1)		
	肺炎球菌性肺炎(膿性喀痰のグラム染色で肺炎球菌が観察されるp26)	⇒	A-3
	その他の細菌性肺炎(膿性喀痰のグラム染色でその他の原因菌が観察されるp26)	⇒	B-1
	起炎菌不明;細菌性肺炎疑い (①60歳未満、②基礎疾患がない、あるいは軽微、③肺炎が集団内で流行、④頑固な咳、⑤比較的序脈、⑥胸部理学所見に乏しい、⑦抹消白血球数が正常、⑧スリガラス状陰影またはskip lesion、⑨グラム染色で原因菌が見当たらない :①~⑥2項目以下and①~④4項目以下)	⇒	C-1
	起炎菌不明;非定型肺炎疑い (①60歳未満、②基礎疾患がない、あるいは軽微、③肺炎が集団内で流行、④頑固な咳、⑤比較的序脈、⑥胸部理学所見に乏しい、⑦抹消白血球数が正常、⑧スリガラス状陰影またはskip lesion、⑨グラム染色で原因菌が見当たらない :①~⑥3項目以上and①~⑤5項目以上)	⇒	D-1
	起炎菌不明;細菌性肺炎、非定型肺炎の鑑別不可能(上記以外)	⇒	E-1
	入院の必要あり(中等症肺炎 and 脱水症状あり or 外来通院困難 or 家庭に看護者なし or 肺炎治療に影響を及ぼす基礎疾患・合併症あり or その他医師の判断)	⇒	F-1
	入院の必要なし((軽症肺炎 or 中等症肺炎) and 脱水症状なし and 外来通院可能 and 家庭に看護者あり and 肺炎治療に影響を及ぼす基礎疾患・合併症なし)	⇒	A-5
A-3	7日後 体温<37.5°C and 症状改善 and CRP改善 and X線改善 and 白血球正常化 and 酸素吸入必要なし(SpO2>95%以上) and 腸管機能問題なし	⇒	A-4
	3, 7日後 発熱・症状あり and 白血球、CRP、XP:残存または悪化 (SpO2≤93% or 酸素化不良の徴候あり) and 酸素投与量○○以上	⇒	F-1
		⇒	G-1
B-1	7日後 体温<37.5°C and 症状改善 and CRP改善 and X線改善 and 白血球正常化 and 酸素吸入必要なし(SpO2>95%以上) and 腸管機能問題なし	⇒	A-4
	3, 7日後 発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):残存 or 悪化) (SpO2≤93% or 酸素化不良の徴候あり) and 酸素投与量○○以上	⇒	F-1
		⇒	G-1
C-1	7日後 体温<37.5°C and 症状改善 and CRP改善 and X線改善 and 白血球正常化 and 酸素吸入必要なし(SpO2>95%以上) and 腸管機能問題なし	⇒	A-4
	3日後 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):残存 or 悪化)) and 起炎菌不明;非定型肺炎疑い	⇒	D-1
	3日後 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):残存 or 悪化)) and 起炎菌不明	⇒	E-1
	3, 7日後 発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化) (SpO2≤93% or 酸素化不良の徴候あり) and 酸素投与量○○以上	⇒	F-1
		⇒	G-1
D-1	7日後 体温<37.5°C and 症状改善 and CRP改善 and X線改善 and 白血球正常化 and 酸素吸入必要なし(SpO2>95%以上) and 腸管機能問題なし	⇒	A-4
	3日後 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):残存 or 悪化)) and 起炎菌不明;細菌性肺炎疑い	⇒	C-1
	3日後 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):残存 or 悪化)) and 起炎菌不明	⇒	E-1
	3, 7日後 発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化) (SpO2≤93% or 酸素化不良の徴候あり) and 酸素投与量○○以上	⇒	F-1
		⇒	G-1
E-1	7日後 体温<37.5°C and 症状改善 and CRP改善 and X線改善 and 白血球正常化 and 酸素吸入必要なし(SpO2>95%以上) and 腸管機能問題なし	⇒	A-4
	3日後 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):残存 or 悪化)) and 起炎菌不明;細菌性肺炎疑い	⇒	C-1
	3日後 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):残存 or 悪化)) and 起炎菌不明;非定型肺炎疑い	⇒	D-1
	3, 7日後 発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化) (SpO2≤93% or 酸素化不良の徴候あり) and 酸素投与量○○以上	⇒	F-1
		⇒	G-1
F-1	7日後 体温<37.5°C and 症状改善 and CRP改善 and X線改善 and 白血球正常化 and 酸素吸入必要なし(SpO2>95%以上) and 腸管機能問題なし	⇒	A-4
	2日後 発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化) (SpO2≤93% or 酸素化不良の徴候あり) and 酸素投与量○○以上	⇒	薬剤変更
		⇒	G-1
A-4	経口薬にしても悪化せず 体温<37.5°C and 症状改善 and ((白血球 or CRP or XP):正常) (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化)) and 肺炎球菌性肺炎 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化)) and その他細菌性肺炎 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化)) and 起炎菌不明;細菌性肺炎疑い (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化)) and 起炎菌不明;非定型肺炎疑い (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化)) and 起炎菌不明;細菌性肺炎、非定型肺炎の鑑別不可能 (発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化)) and 重症肺炎	⇒	A-5
		⇒	A-3
		⇒	B-1
		⇒	C-1
		⇒	D-1
		⇒	E-1
		⇒	F-1
A-5	発熱・症状 or ((白血球 or CRP or XP):悪化) 経口薬終了しても悪化せず 体温<37.5°C and 症状改善 and ((白血球 or CRP or XP):正常)	⇒	A-1
		⇒	A-6
G-1	(SpO2>93% or 酸素化不良の改善) and 肺炎球菌性肺炎	⇒	A-3
	(SpO2>93% or 酸素化不良の改善) and その他細菌性肺炎	⇒	B-1
	(SpO2>93% or 酸素化不良の改善) and 起炎菌不明;細菌性肺炎疑い	⇒	C-1
	(SpO2>93% or 酸素化不良の改善) and 起炎菌不明;非定型肺炎疑い	⇒	D-1
	(SpO2>93% or 酸素化不良の改善) and 起炎菌不明;細菌性肺炎、非定型肺炎の鑑別不可能	⇒	E-1
	(SpO2>93% or 酸素化不良の改善) and 重症肺炎	⇒	F-1

喘息（参考：開発中）



呼吸器内科：喘息コンテンツの移行ロジックは現在開発中である。

8) 救急 急性薬物（眠剤）中毒



ユニット移行ロジック一覧 (急性薬物(眠剤)中毒)

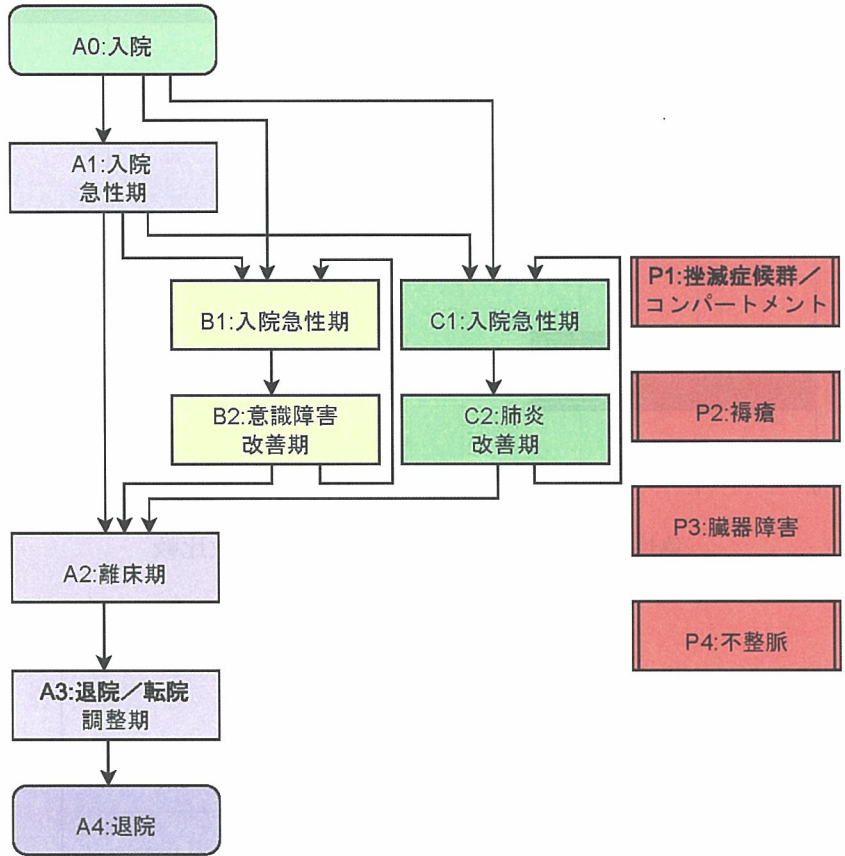
2006年度

※2005年度版と同一

現ユニット	ユニット移行条件	移行先
A-0	気管挿管が不要	A-1へ
	意識障害のため気管挿管を要した	B-1へ
	誤嚥性肺炎のため気管挿管を要した	C-1へ
A-1	気道閉塞がない and 呼吸が安定している and 意識レベル低下がない and 血圧脈拍が保たれ十分な尿量が得られる and 肺炎の兆候がない and 薬剤排泄(薬用炭便)ありが望ましい(必須としない)	A-2へ
	意識レベル低下があり気管挿管を要する 挿管を要する肺炎を合併	気管挿管してB-1へ 気管挿管してC-1へ
A-2	バイタルサインが安定し、精神的に安定し、病棟内歩行可	A-3へ
A-3	合併症の併発がないか治療が終了 and 精神科治療終了または今後の診療計画が決定 and 退院または転院の受け入れ環境の完了	A-4へ
B-1	自発呼吸が安定している and 肺炎の兆候がない and 血圧脈拍が保たれ十分な尿量が得られる and 意識レベルが改善する and 薬剤排泄(薬用炭便)ありがのぞましい	抜管してB-2へ
B-2	意識レベルが安定している and 抜管後気道閉塞なく自発呼吸が安定している and 血液ガス所見が良好で肺炎の所見が認められない	A-2へ
	意識レベル低下による気道閉塞の所見がある or 自発呼吸が不十分	再挿管してB-1へ
C-1	肺炎の所見が改善し and 血液ガス所見が改善し and 血圧脈拍が保たれ十分な尿量が得られる and 意識レベル低下がない and 薬剤排泄(薬用炭便)ありが望ましい(必須としない)	C-2へ
C-2	意識レベルが安定し and 抜管後気道閉塞がなく自発呼吸が安定 and 血液ガス所見が良好で肺炎の再燃がない 血液ガスが不良、あるいは自発呼吸が不十分	A-2へ 再挿管してC-1へ
A-1	意識障害時の同一体位によるコンパートメント症候群/挫滅症候群がある	P-1*の併用
B-1	意識障害時の同一体位による褥瘡がある	P-2*の併用
B-2	肝障害、腎障害などの臓器障害の徴候がある	P-3*の併用
C-1	向精神薬によるQT延長などの不整脈	P-4*の併用
C-2		
共通		

*印のユニットは、メインプロセスの流れに並列して走るユニット(例:褥そうケアなど)。

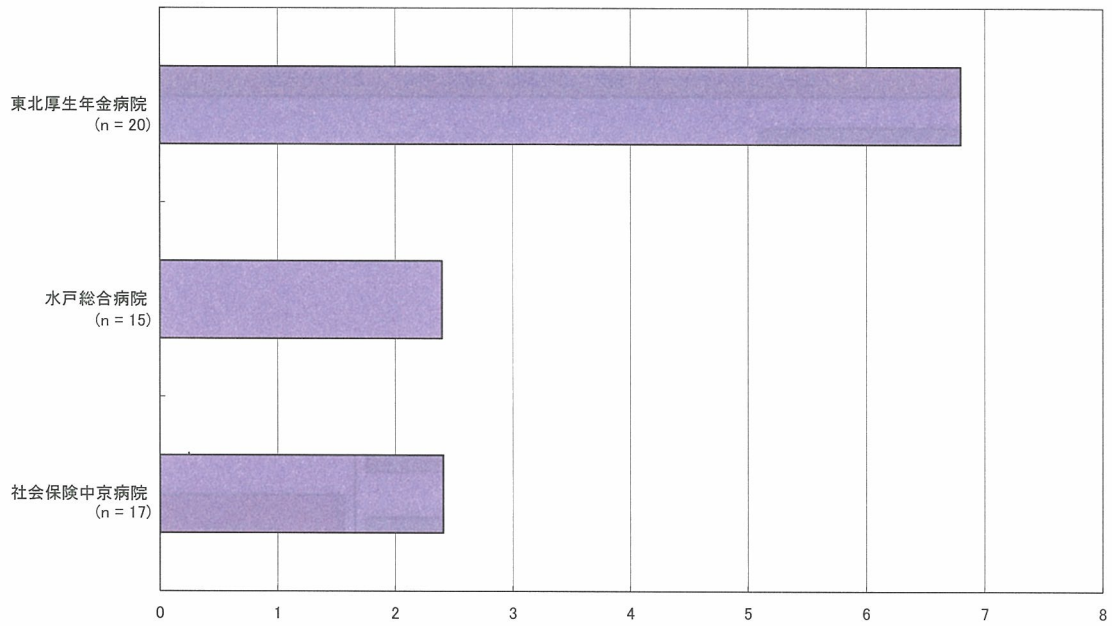
臨床プロセスチャート (救急：急性薬物 (眠剤) 中毒) 2006年度



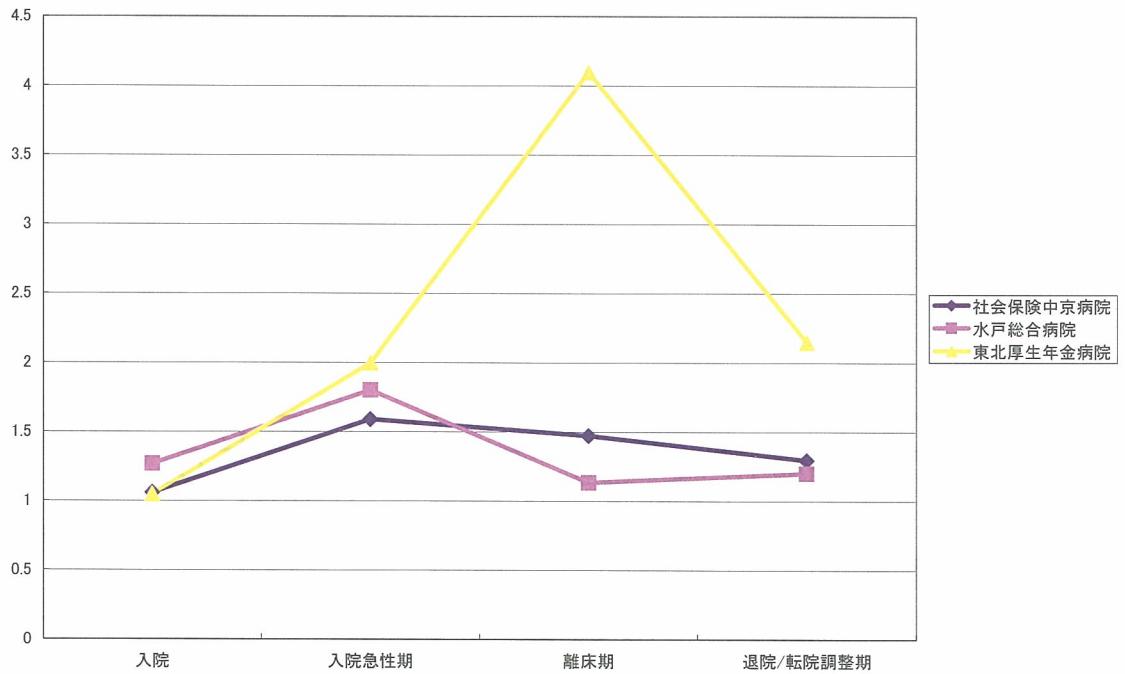
経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
急性薬物(眠剤)中毒	A0-A1-A2-A3-A4	42	76.4%	○	96.4%
	A0-B1-B2-A2-A3-A4	8	14.5%	○	
	A0-A1	1	1.8%	○	
	A0-A1-B1-B2-A2-A3-A4	1	1.8%	○	
	A0-A1-C1-C2-A2-A3-A4	1	1.8%	○	
	A0-B1-B2-B2-A3-A4	2	3.6%	×	
	合計	55	100.0%		

平均在院日数



急性薬物（眠剤）中毒の平均在院日数比較



急性薬物（眠剤）中毒のユニット滞在日数比較

【検証調査のデータ処理に関する注意事項】

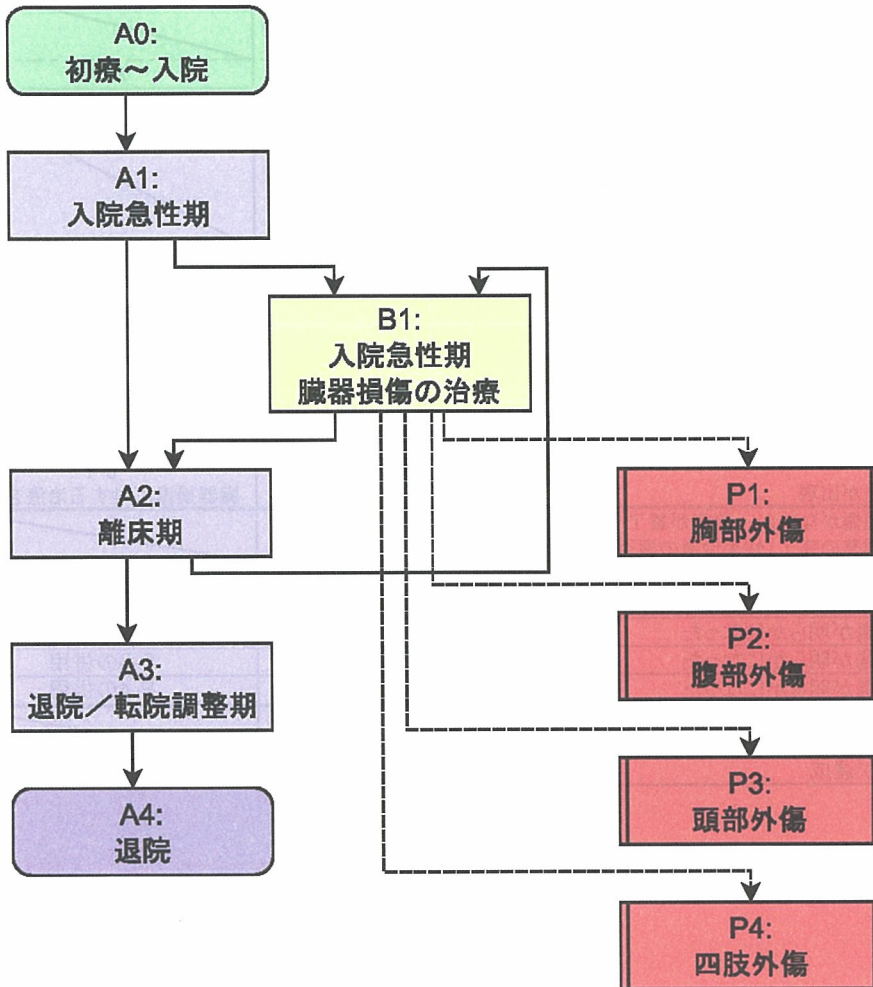
データの外れ値（経過日数の逆転，滞在ユニット記載の不備など）が疑われる症例は除外した。

【平均在院日数，ユニット滞在日数に関する注意事項】

グラフには，通常のルート(A 系列など)をたどった症例のみを用いた。

従って，サンプル数 (n) は検証を実施した全数ではない場合がある。

OPC 救急 (軽症外傷) 2006年

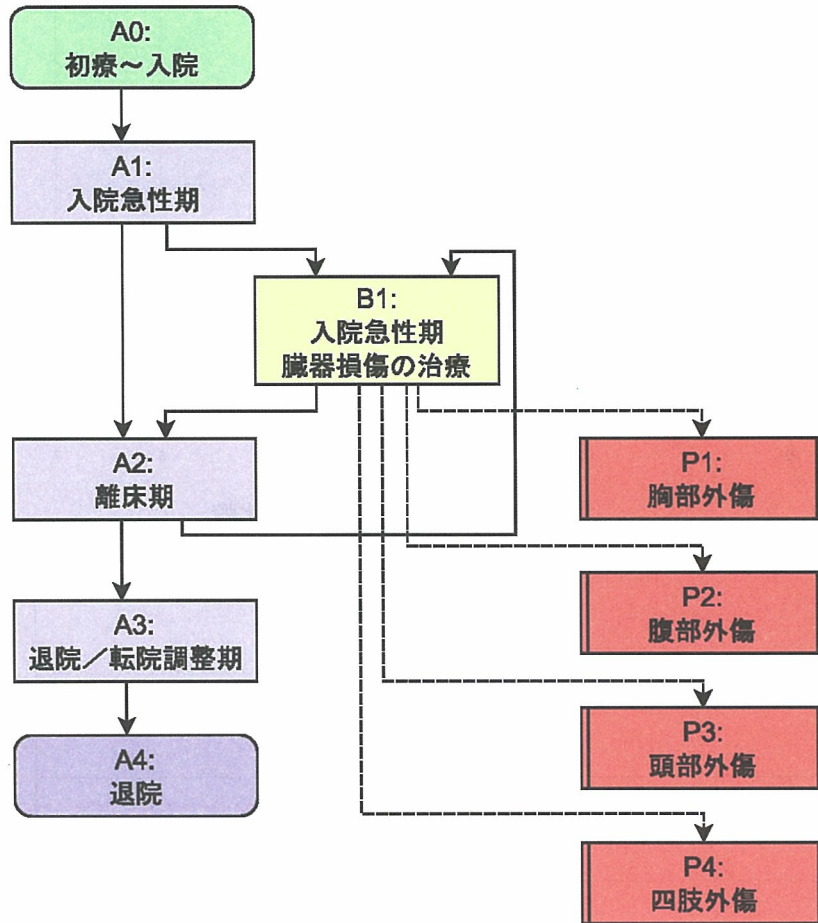


ユニット移行ロジック一覧(救急:軽症外傷)

2006年

現ユニット	ユニット移行条件	移行先ユニット
A-0	入院(経過観察目的) (外傷は軽微でも、既往疾患のリスクもしくは感染症がある) (健忘、吐気嘔吐、頭痛、腹痛、軽度の低酸素血症、発熱の症状がある) (画像等のスクリーニングで臓器損傷、骨折は指摘できない)	A-1へ
A-1	①呼吸、循環に異常はない ②A-0の症状の増悪がなく、新たな症状が出ていない ③腹部理学的所見に異常がない ④十分な尿量が得られる(維持輸液量以上の輸液は必要ない) ⑤再検した血液検査、画像所見などに異常がない ⑤意識清明で会話や人格はいつもと変わらない ①~⑤が達成	A-2 B-1 臓器損傷に対する治療を開始
A-2	①自立座位、歩行が可能 ②自覚症状の増悪がない ③食事摂取が問題なくできる ④経口摂取主体で(または抜針後)、尿量が得られている ①~④が達成	A-3 B-1 臓器損傷に対する治療を開始
A-3	①臓器損傷がないか、治療が終了 ②退院調整の完了(外来治療の要否判断を含む) ①~②の達成	A-4
B-1	胸部外傷が明らかになった 腹部外傷が明らかになった 頭部外傷が明らかになった 四肢外傷が明らかになった ①バイタルサインの安定 ②臓器損傷(Pユニット)の治療が終了 ①~②が達成	P-1の併用 P-2の併用 P-3の併用 P-4の併用 A-2

CPC 救急 (軽症外傷) 2006年



経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
軽症外傷(経過観察)	A0-A1-A2-A3-A4	65	92%	○	100%
	A0-A1-B1-A2-A3-A4	6	8%	○	
	合計	71	100%		